



人の手から人の手へ 私設救助隊 侍 自分ができることは何か

東日本大震災後、動き出した20代の若者の足跡です。

『私たちは歴史の1ページに立ち会っているのです(池上彰)』

第一回は、3月19日(土) PM10時にワゴン車と台男性8名が支援物資(毛布、生理用品、食料等)を積んで東京を出発。道は復旧しておらずの時間かけ、20日AM4時福島のいわき市に到着。避難所に直接物資を運び、その後ニーズ確認のため平消防署にあり災害対策本部にも直接話を聞きに行きましたが、孤立している避難所もなく物資もくまなく行き届いているということでした。関東からのボランティアの方も多く、物資の仕分け、配達を協力し合ってやってもらっているとのことでした。当日に帰宅。

第二回は参加者2名。翌4月1日(金) PM11時東京出発、AM6時石巻市着。女川、七ヶ浜、名取、相馬、松島と各ボランティアセンターを訪れ、現況、ニーズ、ボランティアの受け入れ態勢ができていくか調べ模様。

石巻市にて、知人宅のガレキの撤去。泥の中からアルバム、現金20万円と通帳、印鑑の入ったバックを見つけました。2日に車中泊して3日帰途につく。第三回、第四回と毎週前回の行程で石巻のガレキの撤去に行きました。

なぜ、石巻市かという点、県外からのボランティアを受け入れることが可能であり、また東京から日帰りで行ける作業ができ、最も被害が多くニーズがあふれていたからです。

ゴールデンウィークは、道路も混み、ボランティアも殺到する為避け先週行って来ました。

5月14日(土) 夜24時集合24時30分出發
高田馬場駅BIGBOX前の広場集合です。
5月15日(日) 8時半時石巻市災害ボランティアセンター到着 作業開始・15時作業終了・16時石巻出発・23時頃新宿到着

石巻市は、相変わらず、船は陸地にあがったままで、壊れたガレキ・車も撤去が進んでおりません。電気・ガス・水道はまだ完全に復旧しておらず、片付けに訪問したお宅は、電気はまだ通っておらず、プロパンガスと水道は来ていました。お風呂は1階で、台所は2階、そこに住居し、食事は取れますが、1階は完全に浸水してしまつたためお風呂は使えません。近くの湊町は70cm地盤が下がり、満潮になると陸地が深い所だと40cm冠水してしまいます。

「自分の無力さを感じた。復興は時間が解決すると思っている人が多いが、人の手をかけないと復興には結びつかない」

「百聞は一見にしかず。」
多くの方に現状を、真実を見て伝えてもらいたい。

今、最も現地に求められる事が人的支援です。
『支援したいけど何ができるかわからない』
『行っても邪魔になりそう』

その思い無駄にしたくない・・・とはいっても一人で参加するには東京から宮城だとしたら高速代で片道1万円近くかかりガソリンで片道1万5千円程度はかかり往復すると数万円かかってしまふ・・・東京発のNPOボランティア団体からの参加は3泊4日だし仕事・・・しかし日帰りでもみ



んなで車で行けば割り勘で安く済み、仕事に支障もきたしません。
支援活動をしたくてもできなかった方、是非ご参加ください。道具、軍手はボランティアセンターで全て用意してくれまふ。着替えやタオルは持参してください。服装は汚れてもよい服、靴(長靴が好ましい)で来てください。ボランティア保険(天災型)は現地で入れます。

■参加費 約6500円(ガソリン代、高速代等を割り勘します)
ライフライン状況はガソリンスタンド、スーパー、コンビニはほとんど営業再開しています食事や飲料もちゃんと売っています。
支援活動の内容はボランティアセンターに依頼があつた住宅の瓦礫の除去がメインになります。現地状況では人手がいくらあつても足りません。
2ヶ月たった今でも義援金は届いていません。気持ちには募金であれ物資であれ、必ず人の手から人の手に届きます。気持ちを届ける1番の方法は自分の手で届けることです。被災地もそれを望んでいます。

現時点で延べ47名現地ボランティアに参加致しました。
現地には日本人、外国人、老若男女問わず全国から気持ちだけで集つたボランティアが数多くいます。宮城県の放射線量は東京よりも低いです。ガイガーカウンター(放射能測定器)も持つて行きます。
お問い合わせ等はメールでお願いします。
samurai_2011031@yahoo.co.jp

